

おうちで楽習保育®をやってみよう

かずかたち あそび編

冬本番となり、空気はひんやり、おうちでぬくぬくのんびりと過ごす方も多いのではないでしょうか。親子で過ごすおうち時間、ご家庭の中でも、大人からのちょっとした声かけの工夫でまなびにつながるあそびを楽しむことができます。

「かずかたちあそび」編では、保護者の皆さまからのご質問に答えながら、身近にあるものから、「かず」や「かたち」に親しめる楽しいあそびをご紹介します!!

ママ・パパの悩みに 専門家が答えます!

Q 何を見せても「まる」と言います。かたちの見分けがつかないのではと心配になります。(1歳/女児のママ)

A 「まる」は、子どもにとって言いやすい言葉ですね。おぼえた言葉を使うことが楽しい時期でもあります。子ども向けのキャラクターやおもちゃは、丸を基調としたものが多いので、丸をきっかけに、他の形に興味を広げていくのはこれからです。「さんかくおにぎり、どうぞ」「しかくい積み木でテーブルができたよ」と、ままごとや積み木に「見立てあそび」を取り入れるのも良いですね。親子で会話を楽しみながら、色々な形に触れて遊ぶ経験を繰り返すことで、形と名前を一致させることができるようになるでしょう。

「かたちあそび」の 紹介 おままごとで○△□

あそびの効果 ● 違いを判別する力 ● コミュニケーション力を育む

日常にたくさん潜んでいるさまざまな形。日頃から慣れ親しんでいるあそび「おままごと」を通して、形に自然に触れられるよう豊富に声をかけることで、子どもは楽しみながら形の特徴に気づいていきます。



おままごとで楽しかったあそびをきっかけに、日常生活の中でも自然とかたちを意識するようになりますよ!

黒いしかくはチョコケーキ〜

黄色いしかくはチーズケーキね!



物の名前とともに、色や形の特徴も伝えていきましょう。

♡ 形から、さらに数の感覚を知るあそび ♡

親子で簡単! 「数」を体験しよう



「楽習保育チャンネル」で検索!

<https://onl.tw/TLED6Dv>

Q 興味がないのか、数を数えようとしません。どうしたら興味をもちますか? (3歳/男児のパパ)

A 数への興味には個人差があります。無理強いせず、生活の中にさりげなく数を取り入れてみましょう。例えば、おやつの時に「ドーナツはいくつ食べたい?」、お散歩で見つけた消防車を数えて「3台あるね!」と、好きなものに結びつけて言葉で触れると、数えることも楽しくなり、興味を持つきっかけになります。

大人の真似をして「いち、に、さん」と言い始めたら一緒に楽しみ、「数えるって面白い!」という気持ちを育てたいですね。

「かずあそび」の 紹介 好きなものを数えてみよう

あそびの効果 ● 数への興味

子どもが好きなもの、大切なものが数えられるようになったら、嬉しくて楽しくて、好きがもっと好きになります。身近なものから数字に触れることで、楽しみながら数への興味を引き出すことができますよ!



食べものなかまあつめたよ!

いくつあるかな〜いち、に、さん...

輪ゴムの数かぞえてみよう!

ピンクが3つ〜



10個だよ!

♡ 「数」をかぞえて「量」を知る発展あそび ♡

【数えてみよう!】数字と数量の一致



「楽習保育チャンネル」で検索!

<https://onl.tw/NRgVMqk>

Q 来年小学生になります。時計をみて行動することができません。大丈夫でしょうか。(5歳/男児のパパ)

A まずは時計を読むことより、生活に時間に関係していると感じることが大切です。家庭では、針と1~12までの数字を使ったアナログ時計の使用をお勧めします。「明日は何時に起きようか?」「歩いたら○分かかったね」など、会話の中で「時間」や「時間の感覚」を共有すると良いでしょう。ただし、家庭での時間は目安です。時間にとらわれすぎて、子どもが窮屈さを感じることはないように気を付けましょう。



専門家の声

VOICE



いちずみ やすえ
市角 康絵先生

● 楽習保育®
かずかたちあそび
アドバイザー

乳幼児期の「かずかたちあそび」は、ドリルや計算をすることではなく、生活の中の数や形に気づき、身近な物の性質を知ることです。「ぞうさんは大きいね」「りんごはまるいな」など、言葉と表情で伝えることは、感触・音・匂いの感覚を元に「これはどういうものかな?」と子どもが考える経験になります。この考える経験が、将来の数や形の学びになるのです。乳幼児期に五官(手・耳・鼻・口・目)をフルに使って、五感を刺激する経験がたくさんできると良いですね。そして成長に合わせて、子どもの興味があるものを一緒に数えたり、体を使ったゲーム遊びに得点や時間を取り入れたりすることで、楽しく数に親しむことができるでしょう。その際、正解や成果の正しさにはこだわらないようにします。子どもの成長過程で数や形が好きになる時を見逃さず、親子でかずかたちあそびを楽しみましょう。